



風光明媚な波戸岬

20

1990.1

平成二年の新春を

この度、安都間明副会長のご勇退にともない辻長英氏
(株式会社辻組社長)に副会長に就任いただきました。



副会長
高田省三

福岡市に在住の佐賀県人会の皆様、明けましておめでと
うございます。今年はお互い
に健康で生き年でありませう
大いに期待致したいと思いま
す。昨年は昭和天皇が崩御
なされ、国民一同悲しみにく
れ、一方ではリクルート、消
費税及び宇野総理大臣の艶聞
事件によって、マドンナ旋風

が日本中を駆け巡り遂に、参
院選では保革逆転劇で終り
となりました。さて今年はおバ
タリアン族に敗けてはおれま
せん。お屠蘇気分に乗ったと
ころで男の意地の見せどころ
「元旦やおザタリアンの出番
なり」会員各位のより一層の
ご協力をお願い致します。



副会長
辻長英

明けましておめでと
うございます。昨年は世も平成と変
り、内閣も二度変り、国外で
も冷戦に終止符が打たれると
いう様に大きな変革の年であ
りました。私に思いがけなく
副会長にこの話がありがた
が、博多っ子で妻の関係を県
人会の末席に連つて居る私と

してその資格ありやと悩みま
したが、在福佐賀県人会の主
旨が佐賀県と福岡県との相互
協調にあるとすれば、その面
では何かお役に立つ事もある
のではないかと考え、お引受
け致すことと致しました。未
熟者ですが懸命の努力を致し
ますので宜しくお願いします。



副会長
筒井寅吉

新年明けましてお目出と
うございます。

今年も佐賀県人会の益々の
繁栄を祈念致します。福岡で
は、佐賀県人会は鹿児島県人
会と並んで双壁だといわれて
いますが、これも皆様のご協
力の賜物だと感謝申し上げます。

故郷佐賀も吉野ヶ里遺跡で

一躍日本中で有名になり、熱
気球大会でも世界に名を挙げ
ました。今年には新春早々直木
賞作家も生まれました。文化
面でも天下に名声を博すこと
は佐賀県にとって、よい兆候
だと思ひ今後を期待していま
す。今年もより一層の佐賀県
人会の発展のため会員皆様
のご協力をお願いいたします。



副会長
大串梓

明けましておめでと
うございます。

昨年は米ソ首脳会談、東欧
の市民運動など激動の中に暮
れました。今年も或る意味では
歴史の流れが変わるかもしれな
い画期的な年になりそうです。
私が在職している金融界で
も、金融制度の問題をはじめ
として、色々の見直しが計画

されています。いずれにしろ、
政治が、社会が、また金融が
確実に前進している事を私は
肌身に感じます。

二十一世紀まであと十年、
後になつて悔いの残らないよ
う今年も頑張つてみようと思
っています。県人会の皆様
よろしく願ひします。

お慶び申し上げます



名誉会長
永倉三郎

平成二年の輝かしい新年を
迎え会員皆様方の益々の御健
勝と御繁栄を心からお慶び申
上げます。

さて、いよいよ一九九〇年
代を迎え、二〇世紀も余すこ
ろわずかととなりました。こ
の九〇年代は、来るべき二一
世紀に向けて、国際的にも国
内的にも、平和で豊かな社会



会長
金子宜嗣

新しい年、平成二年を迎え、
県人会のみならずには、新鮮
なお気持ちで事業に、家庭生
活に取り組まれておられるも
のをご推察申し上げます。

福岡市佐賀県人会も、みな
さまのお陰で、年を追つて親
睦の輪が広がり、その結びつ
きも一層、強くなつて参りま

した。故郷を同じくする者と
して嬉しく意を強くするこ
ろでもあります。

現在、私たちが生活する福
岡都市圏は、日本列島のうち
でも、最も活気あふれる地域
として全国の注目を集めて居
りますが、昨年はアジア太平
洋博を成功させ、今年は、と

易体制の恩恵を最大限に享受
し、経済大国へと発展してま
いりましたが、世界経済が一
層グローバル化していく中で
わが国独特の経済システムが
閉鎖的であり、自由貿易の原
則に反すると各国から指摘さ
れております。

この様な情勢の中で私たち
県人会も金子会長のもと、会
員皆様の「心のつながり」の
拠所となる様、心から念ずる
ものであります。益々のご発
展を祈念し新年のご挨拶とい
します。

このように急速に変化しつ
つある世界情勢の中で、わが
国は、グローバルな観点に
立つて、いかにして世界各国
と共存共栄の道を探つて行く
べきか、官民挙げての真剣な
対応が求められております。

これまでわが国は、自由貿
易の環境をもち吉野ヶ里遺跡
の発掘、スナイプ級ヨット世
界選手権、熱気球世界大会な
どのイベントも開かれました。
福岡都市圏で、また全国で、昨
年ほど「佐賀」が話題にのぼつ
た年はなかったと思います。

福岡と佐賀は、他の地域と
の関係以上に、太い絆で結ば
れており、福岡市内には佐賀

出身の家庭が十万人帯程あ
り、政・官・財界でも活躍し
ておられます。一方で、都市
圏に住む人々にとつて佐賀は
レクリエーション、リゾート
に不可欠の地域となつており
ます。この絆は、交通体系の
整備とともに、今後益々強ま
ることでしょう。福岡と佐賀
が、ともに競い合つて、一層
の発展を遂げることが私ども
の願いであります。会長とし
ても、微力ながらも両地域の
発展に尽すつもりでございます。
ご協力を改めてお願い申
上げます。

川古の大楠で有名な武雄市若木町川古が本籍地です。もとは武雄温泉駅近くの小楠が父祖の地でしたが、明治年間に火災のため現在地に引越した浄土真宗の寺が父の生家です。父は三男でしたので国鉄に奉職し各地を転勤していましたが、私が小学校に入学する頃は嬉野に勤務しており結局二十四年に卒業するまで同地で過ごしました。その後佐賀県を離れましたが、福岡市には大学入学以来途中五年間

活躍する
佐賀県人
たち

私は、藤津郡塩田町に生れ、昭和39年3月大学を卒業し、同年4月、株式会社大林組に入社し、今日まで都市土木(駅、地下街、高速道路)トンネル、橋梁、シールド等全て土木工事に従事しております。私達の仕事は公共工事が主で苦労はありますが、完成時の楽しみと自分達の作品を利用したり、又、将来作ったものが残りますので作るもの

の他市勤務を除き二十九年間住んでいます。最初の就職先は北九州財務局(現福岡財務支局)でした。ここでは、総務・人事広報・経済調査・国有財産関係訴訟

浜の町病院
事務部長
楠村 正治さん
(武雄市出身)



など後方支援的な仕事が多かったように思います。もっとも最後の十年ばかりは南北九州財務局の統廃合問題や財政再建・税制改革の広報などの重要な課題に、財務

広報官、総務課長、出向先の中国財務局松江財務事務所長、福岡に帰っての理財部次長などの役職として係わり、思い出深いものがあります。六十二年二月浜の町病院に再就職し、現在に至っておりますが、病院の経営環境もきびしいものがあり、これを乗り切っていくことは大抵のことではないと痛感しています。これまで、自身の非力を十分自覚して事に当たった時に道が拓けたように思いますので、今後もこれを忘れないようにしたいものです。

(株)大林組九州支店
地下鉄複田西JV工事事務所
所長 蒲原 圭介さん
(塩田町出身)



に対して責任が大きい。今度の地下鉄工事も急激な都市化と人口増加が進む福岡市東南部地域は、道路混雑が激しい地域です。また空港は、アジアの拠点都市として飛躍する

福岡市の重要な都市施設として旅客は年々増加しています。市では通勤・通学などの都市交通問題を解決し、空港利用者へ利便性の高いアクセス手段を提供するため、平成5

年春の開業に向けて、定時性・高速性に優れた地下鉄を開業中の延浜(博多)間の1号線の延伸として空港までの三・一kmを建設中です。建設工事共同企業体では、このうち東比恵(複田)中間換気所間の八五六M区間を、シールド外径一〇・二Mの断面トンネルの泥水加圧式工法により建設中であります。いいものを完成させたたく頑張っております。将来は九州に定住を決め、に居を構えました。

(株)トヨタレンタリース福岡

福岡市博多区東光寺町1丁目1-1 TEL (092) 461-0100

私の履歴書

ふたつのふるさと

KBC九州朝日放送専務

犬塚 堯氏

ぎょう 氏

中国に生まれて十七歳までそこで育った。小学校は北京、中学校は奉天(現瀋陽)一高(旧制)を受験するため日本にきた。一高の寮では「お前はやはり支那人だな(当時の言葉遣い)」とよくいわれた。大陸に育った感覚の違いはあると思う。昭和七年、小学校三年のとき、抗日運動の難を避けて父母の郷里の伊万里に来て、伊万里町尋常小学校に入学した。担任の松尾先生は厳しい方だったが、生徒に注

当時の佐賀弁は徹底的に佐

略歴 一九二四年中国東北部長春に生まれる。北京日本人小学校、奉天第一中学校、第一高等学校弘文科(旧制)、東京大学法学部政治学科卒、一九五〇年朝日新聞社入社、一九八一年朝日新聞社役員、一九八五年KBC九州朝日放送専務。
一九六九年第一詩集「南極」H氏賞受賞、第二詩集「折り折りの魔」、第三詩集「河畔の書」現代詩人賞受賞、ほかに詩劇「惜夜」「輪多梨の花」「三夜」など。



KBC九州朝日放送専務取締役室にて

賀弁なので聞きとりにくかった。しかし、同級生とは心は通って城山に一緒にいてよく遊んだ。道に迷ってひとりはぐれてしまったときはみな泣きながらさがしてくれた。約半年の交遊のあと北京の小学校に帰り、奉天に引っ越してその中学を卒業した。中学時代は陸上、ボクシング、相撲などスポーツに明け暮れた。満州代表で明治神宮大会にも何度か出場した。肉体の

力を讃美できたことは、その後の思想や詩作に役立っているように思う。一高には自由と自治の伝統が生きていた。学徒兵として佐賀市高木瀬村の通信連隊に入隊したが、私は軍隊の圧迫や不自由をそれほど感じないで自由気ままな二等兵として過ごした。最近、同年兵に会ったが、周囲がはらはらするような自由な兵隊だったといっていた。敗戦がだれの目にも

明らかとなったころ将校たちに呼ばれて意見を聞かせよというので、外交交渉を急ぐべきだといった意見を述べた。叱られもしなかった。終戦ですぐ東京に舞戻って海外に父兄をもつ学生を組織して引揚促進運動をはじめた。高松宮様にはいろいろとお世話になった。やがてハルビンから私の一家が引揚げて来た。私は東大法学部を出て朝日新聞の記者となった。昭和三十四年南極探険にいったときは「伊万里市民一同」の壮途祝電をいただいた。このとき南極で書いた詩集でH氏賞を受けた。現在福岡で仕事をしているが、福岡の市制百年を祝って、このほど團伊玖磨氏と協力して「筑紫讃歌」という交響詩を書いて発表した。私には中国と九州の二つのふるさとの血が流れているのを痛感する。



一、鹿城会の由来
「あゝ鹿城の古えの歴史は語る楼門よ、丹塗の扉朝露に濡れて静かに開く時、無限のさとし籠らずや」この歌詞は下村湖先生作詞による旧制鹿島中学校歌の一節である。校舎が旧鹿島城址に設けられ



会長 溝上嘉幸

旧中37回(昭11卒)

福岡鹿城会

総会 毎年六月第二土曜日
松操会も合同で

ふるさと会
同窓会

朝夕その景観に接することから在校生の鹿城赤門に対する愛着思い入れは深く同窓会の別称が「鹿城会」となったのも自然の成行であったろうと考えている。

二、沿革及び同窓生
寛文九年(一六六九年)に

三、福岡鹿城会の現況等
福岡近傍に在住している同窓生は約千五百名で旧中出身者はまばらですが高校卒業生の皆さんが働き盛りで要職を占め生気溢れるものがあります。総会は毎年六月の第二土

日、本校「養花堂」として創設以来「徳義館」「弘文館」「鍛造館」と名称の変遷を経て明治十一年長崎県鹿島中学校、明治二十九年佐賀県尋常中学校鹿島分校、明治三十二年佐賀県第二中学校、全三十四年佐賀県立鹿島中学校と改称され爾來五十年の星霜を重ね幾多の人材を輩出して来たが戦後の学制改革により昭和二十三年四月旧高女校と農商校と三校統合により佐賀県立鹿島高等学校が創設され今日に及んでいると聞いております。

開校以来九十四年(昭和六十二年)創立九〇周年記念行事がなされた。を経過し旧中旧高女、高校の卒業生累計は二万余名に及び日本の近代史に大きな足跡を残され、すでに幽明境を異にされている先輩に負けじと現に社会の各分野で活躍をしている同窓生が多数おられることは誇りであり母校が果たしてきた役割を高く評価したい。

昨午総会を終えたのち当番担当の女性幹事から「こんな温い友情に満ちた会合は初めてで沢山のすばらしい仲間がおられることを知って嬉しい」との述懐がありました。が世話人代表を長年やってきた一人として本当に嬉しゅうございました。私は県人会にも顔を出してあります。県人会も佐賀人もんの集りとして「よか会」です。上も下もなか皆んなで郷里佐賀を盛り上げる会です。鹿城会の皆さん「出てきんしゃい。」

特別仕様車 1500SEスーパーリミテッド



ALL NEW カローラ 誕生

トヨタカローラ 福岡株式会社
福岡市中央区長浜2丁目1番5号
TEL (092) 712-7111

ふるさとと首長



鎮西町

吉田健三町長

人づくりを目指して

いよいよ二十世紀も最後の十年。その第一年度の節目を迎え、経済構造、社会構造が益々複雑多様化するなかで如何に対処してゆくべきか緊張いたしております。今日、日本の社会は、東京一極集中型といわれるように、政治、経済、情報、文化そして若者が集まり強大な集団を形成し発展してまいりました。一方地方では、人口の高齢化がいよいよ高まり、歪んだ不均衡な社会構造となっており、ここに到って、国でも地方の良さを掘りおこし、若者が住める地方づくりを政策的に取り上げ、ふるさとづくり特別対策事業等地方分散型の社会創造実現にむけて強力な推進がはかられています。我が町に

おいても、この新しい波に遅れないようにいろいろ事業計画をいたしております。特に新しい事業が円滑に進み実効をあげるためには、時代の流れに対応できる農業、漁業として商工業などあらゆる分野においてやる気のある若い後継者が如何に育つか、育てるか、が今後の大きな課題だと思ひます。如何に生産環境が改善されても、人がいなくては地域の発展は望めません。そういう見地から全鎮西町民が、知恵をだしあつて新しい時代に対応し、胸を張って堂々と生活できる町づくりを目指してまいります。何卒、皆様方のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

ふるさと紹介

鎮西町

渡来の地でもある。

鎮西町は、九州の最西北端に位置し、唐津市から十六キロ、人口八千四百人、面積三九・二平方キロで気候は比較的温暖である。町の北西部は、玄界灘に突出しており、その海岸線は玄海国定公園の中でも屈指の風光明媚な地である。当町は、玄界灘に浮ぶ三つの離島を有し、大陸への最短地であり、古くから大陸文化の



名護屋城跡 大手門

文禄元年(一五九二)、豊臣秀吉により文禄、慶長の役(一五九二〜一五九八年)の本拠地として、わずか五か月で名護屋城が築城された。秀吉の死後廃墟となった名護屋城は、昔むした石垣のみが当時を偲ばせている。この「名護屋城跡」は、国の特別史跡に指定されており、現在、発掘調査が進められ、保存整備が図られている。平成四年には、「佐賀県立名護屋城跡資料館」が完成の予定であり、今から大いに期待されている。当町の西端にある波戸岬周辺は、玄海国定公園並びに玄海中公園に指定されており、白亜の灯台を背に遠くは壱岐・対馬を望む景観、取り分け「波戸岬サンセット」の景観はすばらしい。また、日本海側唯一の玄海中展望塔では、四季折々の海中散

策が楽しめる。更には、町営の波戸岬国民宿舎を中心にシーサイド・レジャーランド施設(人工海水浴場、野外キャンプ場、テニスコート、野外ステージ、冒険迷路等)があり、年間六十万人のお客さんでにぎわっています。本町における主産業である農業・漁業は、高度経済成長に伴い過疎化現象を呈してきたが、国県営事業による大規模土地改良事業が着手され基盤整備を図りつつ、農業の近代化が進められている。一方、漁業においても捕る漁業から育てる漁業への転換が図られ着実な歩みが続けております。また、生産された新鮮な野菜・果実類や魚貝類による特産品づくりに取り組んでいるところでもあります。特に「太閤キムチ漬」は、隣国である韓国から技術指導を受けて開発された本場の味に勝るとも劣らない産品でキムチ漬を通じて国際交流の大きなかけ橋となっている。

佐賀県内の催し

▽1月5、6日 竹崎観音鬼(裸)祭り(藤津郡太良町)
 ▽7日 唐津天満宮鬼すべ祭り(唐津市) ▽19日 鮎市(鹿島市浜町)
 ▽2月3日 佐嘉神社節分祭(佐賀市) ▽13日 八坂神社春祭り(杵島郡白石町)
 ▽3月8日 鬼子母神祭(小城市小城町) ▽26日 曾根崎の獅子舞(鳥栖市曾根崎)
 ▽4月2日 牛原の獅子舞(鳥栖市・四阿屋神社) ▽10日 日峰さん(佐賀市・松原神社) ▽18日 多久聖廟祭(多久市) ▽29日 5月5日 有田陶器市(西松浦郡有田町)

熱気球世界選手権大会

アジアで初めての第九回熱気球世界選手権大会が十一月十八日から二十七日まで、佐賀市の嘉瀬川河川敷を中心に行われました。
 競技には二十五か国の地域から、千人のパルーンニストと百二機が参加。競技の結果

佐賀県だより

NEWS FROM SAGA

佐賀県だより

は西ドイツのベネディクト・ハッケニー選手(二五)が総合優勝しました。

同大会は、佐賀市が市制百周年の記念行事として取り組んだもので、競技とともに様々のイベントを展開。観客は目標の六十二万人を大きく上回る百六十六万人にのぼり、大成功を収めました。



『吉野ヶ里』再公開

邪馬台国時代のクニのひとつ、として脚光を浴びた吉野ヶ里遺跡(神埼郡神埼町・三田川町)が十月一日、約五か月ぶりに再公開されました。この間、遺跡は埋め戻され、その上に資料展示室(四百七十一平方メートル)が設けられたほか、物見やぐらや高床式倉庫、竪穴式住居などが復元されま

した。さらに十一月十日にはドームで覆った墳丘墓も公開され、連日、見学者でにぎわっています。

ニューオータニ佐賀で行われました。

佐賀新聞文化賞

平成元年度の佐賀新聞文化賞と文化奨励賞の表彰式が十一月二日、佐賀市のホテル

今年度の受賞者は、文化賞が▽県文化団体協議会会長・大塚敏氏(芸術部門)▽県機械金属工業連合会会長・田中辰美氏(産業部門)▽吉野ヶ里遺跡調査班(代表・高島忠平氏、学術部門)の二氏一団体。奨励賞は▽舞踊家・嵯峨君枝氏(芸術部門)▽県音楽協会会長・丸山繁雄氏(学術部門)の二氏。



新首長

▽多久市市長(九月四日、一一)

百崎素弘氏(六二) 無新
 前市助役(佐賀県東京事務所次長、農業経済課長) 旧制修猷館中(福岡市) 卒。多久市北多久町小待

▽小城郡芦刈町町長(九月十九日、一一)

山田勝馬氏(六五) 無新
 前町助役(芦刈町総務課長、収入役) 佐世保海軍工廠教習所卒。芦刈町永田

▽三養基郡中原町町長(十一月七日、一一)

野口文夫氏(五八) 無新
 町長(中原町建設課長、収入役) 旧制三養基中卒。中原町養原。当選三回。

▽東松浦郡七山村村長(十二月三日、一一)

鬼木哲一氏(六四) 無新
 前同村議会議長(松浦東部農協監事、七山村議会議務委員長、副議長 高小卒。七山村藤川

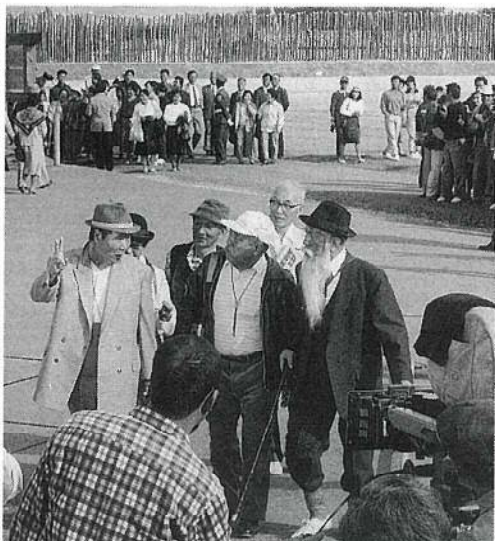
早大附属高の誘致へ

県内の早稲田大出身者らが九月十四日、九州早稲田高校(仮称)設立準備委員会を発足させました。メンバーは香月義人・佐賀銀行会長、中尾清一郎・佐賀新聞社長ら十一人。早稲田の創設者・大隈重信侯ゆかりの佐賀に高校を誘致、地域の発展に結びつけようとの狙いです。候補地として神埼郡神埼朝日の民有地九万平方メートルを予定、同日、メンバーは現地を視察しました。

さらに十八日、重松二紀会長(神埼町長)らが上京。早稲田大に西原春夫総長を訪ねて正式に陳情しました。

寅さんの佐賀ロケ

松竹の正月映画「寅さんシリーズ」第四十二作目「男はつらいよ ぼくの伯父さん」の佐賀ロケが十一月三日から十四日まで小城郡三日月町、杵島郡白石町、佐賀市、神埼郡神埼町などで行われました。ロケには山田洋二監督をは



じめ、主役の渥美清、マドンナ役の後藤久美子らが参加。特に、吉野ヶ里遺跡のシーンは黒山の人がかり。寅さんが例によって、復元された建物を見回して「東京のおれの家は、百年もたないのに腐りかけてるつてのに、これはどうだい。二千年もたつて新築同然じゃねえか」ととんちんかんなセリフ。見物客からどっと笑いが起きていました。



佐賀市文化会館オープン

佐賀市が市制百周年記念事業として、同市日の出一丁目に建設した「佐賀市文化会館」が十月一日オープンしました。

記念典で西村正俊市長は「文化都市を目指す佐賀のシンボルに」とあいさつ。早速、文芸評論家、江藤淳氏の講演(テーマは「百年を超える佐賀」)と、九州交響楽団、佐賀市民混声合唱団などの演奏会が開かれました。

同会館は大ホール(千八百十一席)、中ホール(八百十四席)、イベントホールなどで構成され、残響可変装置など最先端技術が導入されています。

佐賀県だより

NEWS FROM SAGA

佐賀県だより

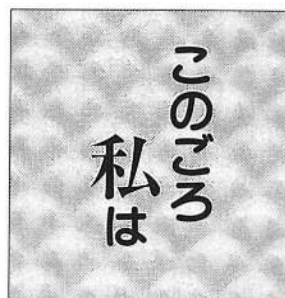


昭和55年10月に福岡市内に転勤し一年間の空白を除いて約8年以上と今までの銀行生活のうち約強を福岡から佐賀を視る地域で生活しています。現在銀行の中では開発業務のセクションで働いており、福岡市とその周辺の開発ラッシュとその規模の大きさは驚愕の一言につきまします。

この躍動している福岡市に進出している佐賀県の実業家と佐賀県出身の実業家の活躍と益々の発展を期して異業種交

三水会旗揚げ

島内 正彦さん



このころ
私は

昭和三十四年、唐津で生まれた私は、五十三年三月、佐賀県立唐津高等学校を卒業と同時に、福岡に出てまいりました。福岡の生活も今年で十年以上になります。今は国鉄も分割されておりますが私は当時の日本国有鉄道の竹下気動車区に配属されました。

すし・和食処

さばりをよろしく

川村 清信さん

中央区天神二丁目八四一
TEL 七二二一―二五九
牛津町出身

流会「三水会」を平成元年4月に結成し、私共の事務所を事務局とさせて頂いております。宗教問題を除き情報交換と相互にメリットを追求していく、毎月第三水曜日に市内ホテルに集まり講演を中心とした勉強会を続けて来ております。平成2年からは会員自らが自己と会社をPRし自社の活性化の為に頑張っていくものと思われまします。現在会員23社、平成2年からは30社の会員となる予定です。事務局は一段と忙しくなりそうです。

（株）佐賀銀行 福岡本部

渉外部 部長

中央区天神二丁目八四一

TEL 七二二一―二五九

牛津町出身



私が入社した頃の国鉄は、あらゆる経営努力の一環として、六十年一月より一時帰休制度により国鉄に席をおいたまま、バンド活動をしながら喫茶・スナック砂保利（福岡市大手門）にバイトとして入店致しました。国鉄より、この世界が私に合ったのか又社長の人柄と商売が自分に合ったのか、そのまゝ国鉄マンから飲食業へと人生の転換を計りました。その努力もみのり、六十二年四月、すし・和食処・さばり（薬院二丁目）にオープン、平成元年十月天神にスナック・くみの店を開店致しました。店もこれを機会に法人組織とし、（株）米倉を創立、まだ若輩ですが専務として店の運営にあたっております。今後とも頑張つてまいりたいと思

青森の「田酒」、秋田の「高清水」、新潟の「越乃寒梅」「峰乃白梅」「雪中梅」「又張鶴」「久保田」「八海山」、宮城の「浦霞」茨城は、「二人娘」、東京の「澤乃井」、岐阜の「三千盛」、広島は「賀茂泉」、九州にくると大分「西の関」、も



ちろん佐賀の地酒も。肴（さかな）がまたいい。カウンターに並ぶ大鉢には、大根やイモの煮ころがし、イイダコの煮付けやきんぴらごぼう。それに有明海の魚介類、すなわち、前海ものがうまい。クチゾコの刺身なんてのは、よそでは滅多に目にかかれない。

居酒屋ふるかわ

佐賀市のネオン街もなかなかのものである。ふるさとに足を運ぶ機会があったら、ぜひ、探訪いただきたい。

佐賀市街のにぎわいの中心は愛敬町。居酒屋「ふるかわ」は、その名もズバリ、愛敬一番街という酒房ビルの二階。ノレンをくぐると、カウンターとちよいと座れる小座敷で十五、六席の小料理屋だが、この店の自慢は、全国の美酒、名酒がズラリそろっていること。これはもう、清酒好きにはたまらない。日本列島縦断ざつと数えても百五十銘柄は下らない。全国各地の純米醸造、吟醸酒が、カウンター越しのガラス張り冷蔵ケースにぎっしり。

店主の古川則雄さんは、日本酒に関することなら学位論文でも書けるほどに詳しい。全国の有名蔵元とも懇意で、まず、入手できない酒はあるまい。奥さんとオシドリ夫婦で歓待してくれるそうだから、ぜひ、どうぞ。（ふるかわ 095226380）

ふるかわの店

会員拡大標語 東京佐賀県人会「東京と佐賀」より

「入らんかい」「よかばい」と言い手をつなぐ
佐賀弁でさそわれて嬉し県人会
老いてのち友がほしけりや県人会
スマイルで親睦互助の県人会
気軽にはいつてみんしやい県人会



窮乏台風、疾病が多く、多くの死者飢民を出した。中央貴族等で私利追求のため地方の国司の兼官を望むものも多く公廩稲の配分等を狙った。天安元年（八五七年）物部広泉が肥前介を兼任し遙任国司となったのもこのような傾向の一例である。九世紀になると地方官の失政が目立ち律令体制は弛緩していった。承和八年（八四一年）の班田収授実施後四十年で法は守られていない事が明らかである。このような政情の内に戸口の減少、口分田の荒廃、他方で空閑地開発が進み墾田系荘園が増加し公領は減少していったものと考えられる。

肥前風土記

古賀 利治

（佐賀郡久保田町出身）

古代国家

肥前の国は天平宝字元年（七五七年）上国に昇格している。国府は現在佐賀郡大和町久池井付近にあったと推定される。一帯には印論社があり国印、国衛正倉の鍵等を保管したところと言われ、惣座という地名がある。これは国司が管内の諸神を巡拝する労を省くため国府の近くの一所に勧請した総社のあったところと言われている。附近一帯は大願寺跡、国分寺跡、国分尼寺跡、など古代寺院跡と河上神社、甘奈比神社等が集中している肥前国分寺は八世紀の中ごろ完成したと考えられ、礎石、蓮華紋の丸瓦が出土している。河上神社の祭神は豫等比咩神で佐賀郡内唯一の小社であった。平安時代前期において肥前国内での名神大社は東松浦郡加部島の田島神社であった。十二世紀後半になると河上神社が肥前の国の一宮とあがめられるよ

うになる。甘奈比神社は貞観十二年（八七〇年）新羅の来寇にそなえて祈願のため大中臣国雄が派遣され宇佐八幡宮、香椎廟、宗像大社とともに奉幣を受けている。肥前国は十一郡からなりなかつても神埼郡は三根郡が分離する以前は一五郷から成る最大のもので、筑紫米多国造の勢力基盤であった。松浦郡十一郷は松浦国造、藤津郡も国造、高木、佐嘉、三根の三郡はそれぞれ県主の勢力圏の上に成立していたと言われている。神埼郡司には米多君北助、佐賀郡司に佐賀公見公、三根郡司に海部直鳥、基肄郡擬大領山春水、藤津郡領葛津貞津、高木郡擬大領大刀主等が推定される。

条里制

令制において郡の下にある里は五〇戸を一里とした。この里制は霊龜元年（七一五年）に郷里制となり郷の下に新しい里が設けられその後郷のみ

荘園

この代表的なものは、神埼御荘（院御領）川副荘（最勝

となった。この制度は方六町を里とよび、そのなかに方一町の区画が三六個含まれ、その方一町の区画を坪とよび、一ノ坪から三六坪まで数えることとした。また方六町の里は各郡東端から六町ごとに西へ一条二条と数え、北から南へ六町ごとに一里・二里と数えた。この地割りには条名、里名、坪名など現在まで部落名、田地の小字名、橋の名前などとして各地にのこっている。八世紀ごろの人口と耕地面積は次のように考えられる。

一郷戸の平均戸数約二五八

前後として一里（郷）の人口

約一三〇〇人前後、郷数が七

〇であるから肥前国の総人口

およそ九万人程度と推定され

る。天平十九年（七四七年）

大政官奏により、田租は一戸

ごとに三〇束として一郷戸の

口分田総額の平均は約二町六

反、一郷で約一三〇町歩、肥

前国で約九一〇町歩となり、

この外粟田、寺田、神田など

を入れて一万町歩となり一〇

世紀なかばごろの「和名抄」

には田、万三千九百余町とあ

る。

この代表的なものは、神埼

御荘（院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

院御領）川副荘（最勝

おくやみ

山口 徳次氏

「佐賀県人会の三〇年史」をむつごろに寄稿頂くなど、県人会に盡力下さった山口徳次元理事が平成元年十一月二十九日亡くなられました。八十二歳でした。ご冥福をお祈りします。多久市出身。南区長住三一五三一〇四

新会員ご紹介

(敬称略)氏名 連絡先 電話番号、職業 出身地の順

山崎 達雄

▽九州大学

江口 義正

▽江北町

岸川 隆司

▽伊

万里市

今長谷スエノ

▽肥前町

杉村 雅子

▽九州大学附属

病院▽佐賀市

尾形 好道

新春

村山 碧 杉

宝満の肩に一閃初日の出

一番機次いで二番機初御空

正月の書架に古りたる広辞苑

歯固の膳に家紋の武田菱

七十の転機を期する年迎ふ

作者は村山公認会計士事務所村山勇吉氏

(仁比山出身)

会員の作品を

お待ちしております

「会報むつごろ」の紙面を通じて、相互交流を深めましょう。

創作、随想、釣り自慢、レジャー紀行文、短歌、俳句、子供たちの作品、サークルの発表会——なんでも歓迎しています。

絵画、書、造形作品などの場合は写真をお送りください。おまちしています。

投稿作品には、テーマ、住所・氏名・年齢・職業(学校・学年)出身地を記入してください。

また、要点、連絡先を電話いただくのも結構です。のちほどこちらから「取材」いたします。

送り先、問い合わせ先は、〒八二〇福岡市中央区天神四丁目一六、昭和セントラルビル、県人会事務局

編集デスク

平成二年新春号をおとどけいたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

肥前風土記(2)を古賀利治氏のご協力により連載いたしました。会員拡大標語は東京県人会誌「東京と佐賀」よりお借りしました。思いは同じ、東京に負けない県人会に発展する様、新会員の勧誘についてよろしくご協力下さいます様お願いいたします。

「佐賀県だより」の記事・写真については、佐賀新聞社から提供、協力いただきました。ありがとうございます。

(T)

会報むつごろ

平成2年1月31日 発行
福岡市佐賀県人会
(発行責任者 溝上 嘉幸)
福岡市中央区天神4丁目1-6
昭和セントラルビル内 (〒810)
☎ 092-761-8253
制作 (有)タナカ製本印刷所
☎ 0955-23-5214